

平成26年度

学校評価報告書

帝塚山高等学校



学校法人帝塚山学園

平成 26 年度学校評価について

帝塚山高等学校は、平成 26 年度の教育活動、及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校生徒とその保護者等、卒業生を対象とした各アンケート結果、並びに保護者等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ実施しました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山高等学校
校長 有馬 利治

1. 学校評価総括

<p>建学の理念</p>	<p>「国家・社会の負託に応える有為の人材を育成する」</p>	
<p>教育目標</p>	<p>個性、特性を伸ばし、「知の力」「情の力」「意志の力」「躯幹の力」をバランスよく鍛え、高い知性と豊かな情操を備えた生徒を育成する。</p>	
<p>これまでの成果と課題</p>	<p>各教科会を中心としたプロジェクトチームを編成し、シラバス・セミナー・講習等の点検と改革を行った。その結果、最終学年進路結果では国公立医学科進学者数は過去最高の人数を出すことができた。また、自習室の開設も定着し、生徒の意識を高める効果があった。学習面だけではなく学校行事・クラブ活動に関しても活動時間の確保により充実した学校生活を送らせることができた。今後、益々、個性を伸ばす教育のため、発達段階に即した教育に取り組む。</p>	
<p>本年度の重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>総合評価</p>
<p>個性を伸ばす教育の実践</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コース制教育の改善 2. 進路指導の充実 3. 学力をつける授業の創造 4. 学校行事・生徒会活動の充実 5. 国際理解教育の充実 6. 生徒安全教育の充実 7. 卒業生・在学生満足度の向上 8. 施設・設備の充実 	<p>進路目標を明確にした授業編成や、セミナー展開により、生徒の進路に対する意識が高くなった。今後も目的別授業編成に重点をおく必要がある。 アンケートに関しては、卒業生の満足度調査では90%を超える結果となり本校への信頼感を確認することができた。現状に甘んじることなく学業・行事・部活動の推進を図る。</p>
<p>入学志願者・入学者の安定的確保</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合学園における一貫教育充実のための内部進学の実施 2. 外部児童・生徒募集の充実 	
<p>教育の意識改革・行動改革の実施</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科会の充実 2. 校務分掌の整理 3. 教員組織の改革 4. 学校評価制度の導入 5. 教員評価制度の導入 	

2. 教育活動に関する評価

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指標	自己評価結果	
建学の理念に基づく 教育目標 教育計画	教育目標の設定	学校教育目標を保護者会、育友会総会などで伝えている	A	A
	教育計画の作成	学級経営案、教科計画案、行事計画案を作成し、実行している	A	
	教育課程の編成	大学入試の実状と動向をふまえ、かつ、中学・高校の募集にも生かされるよう工夫と改善をしている	A	
教科指導	学習指導計画の立案	年間カリキュラム、教科シラバスを作成し、実行している	A	A
	学習内容の精選	学習の重点項目を決定し、その目標に合致した授業を行っている	A	
	指導方法の工夫改善	生徒の学習意欲を高めるため、実験や具体的に体験できる授業を展開している	A	
特別活動 道徳教育 総合的な学習の時間	指導計画の立案	年間を通したホームルームの時間の確保により、見通しを持った授業計画をしている	A	A
	学級活動・学校行事・生徒会活動の活性化	学校行事の計画と準備ができ、生徒が主体的に動き、各係がその役割を遂行できるよう指導している、また生徒会活動についても組織としての運営を行っている	A	
	道徳教育・総合的な学習の時間	具体的資料を用いて授業を進めたり、教科書以外の資料を用いたり体験学習をとり入れて授業を行っている	A	
人権教育	人権教育指導計画の作成	年間指導計画を作成して、ホームルーム・学年集会・授業を進めている	A	A
	学習内容の精選	各学年に応じた目標設定に見合うよう内容精選に努めている	A	
	指導方法の工夫改善	資料や実例をもとにホームルーム等で展開しやすくなるように工夫している	B	
生徒指導	組織的な生徒指導	校則や社会の決まりをしっかりと理解している	A	A
	教育相談・生徒理解指導	生徒理解に努め、不安や悩みに積極的な対応をしている	A	
	関係諸機関との連携	必要に応じ、関係諸機関とも連携をとっている	A	
進路指導	組織的な進路指導	進路状況の確認をするため、頻繁に会議等をもっている	A	A
	指導方法の工夫改善	進路講演会などを積極的に実施している	A	
	関係諸機関との連携	県内の国公立、私立学校と連携がとれている	A	

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

3. 学校経営に関する評価

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指標	自己評価結果	
組織運営	学校経営目標・方針	個性、特性を伸ばし、「知・情・意志・躯幹の力」をバランスよく鍛え、高い知性と豊かな情操を備えた生徒を育成する	A	A
	教職員の適正配置と運営への参加意識	教職員の学校運営への参加意識を高める人材の配置を行う	B	
	会議の運営と位置づけ	課題の検討と取り組みが十分なされ結果が学校運営や教育活動にしっかりと生かされている、また校長の諮問機関としての役割が果たされている	A	
研究・研修	研修の計画と立案	研究テーマに沿った研修が計画的に実施されている	A	A
	校内研修・校外研修の運営	研修における成果が、教育力の向上や日常の教育活動に生かされている	A	
	授業研究	互見授業を含む授業研究により教員の教育力や指導力が向上している	B	
安全管理	学校安全計画の立案	学校安全計画を立てることにより安全管理体制を徹底している	A	A
	学校防災計画の立案	学校防災計画を立て、定期的に防災避難訓練を実施している	A	
	危機管理体制の整備	危機管理マニュアルを作成し、全教職員に管理体制を徹底している	B	
保健管理	学校保健計画の立案	学校保健計画を立て、計画通りに実施している	A	A
	心のケアや健康相談体制の整備	保健室や教育相談室との連携で生徒の相談にあたっている	A	
	関係諸機関との連携	保健所、学校医、医療機関等との連携体制を整えている	A	
地域との連携	学校情報の発信	ホームページや学園新聞を通して情報の発信を行っている	A	A
	地域や学園各学校との連携	地域社会や学園各学校と連携することで、本校に対する協力を得ている	B	
	育友会・体育文化後援会の活性化	育友会・体育文化後援会と学校が結びつきを強めた協力体制がとれている	A	
施設・設備	教育環境の整備	環境整備のための点検が常に行われている	B	B
	施設設備の有効利用	施設設備が有効的に利用されている	B	
	施設設備の管理	施設設備が適切に管理されている	A	

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指標	自己評価結果	
情報管理	個人情報の保護、管理	生徒の個人情報の保護、管理が周知徹底されている	A	A
	公文書の収受、保管	公文書の受付および整理保管がなされるような体制がとられている	A	
	ホームページの活用	ホームページの活用において情報が適切に管理されている	A	
募集活動	募集活動の計画・実施	年間を通して募集活動を計画通りに実施している	A	A
	入学試験の立案と運営	入学試験の立案、要項作成及び運営には全教員がしっかりと関わっている	B	
	関係諸機関との連携	関係諸機関との連携を強化し、募集活動の成果が上がる工夫をしている	A	

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】